

第47回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2018. 8. 28 木村亜希子

『ビオスリー配合OD錠』

東亜新薬(株) 田邊 祐介さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：熊山ともみ、空田さやか、薦田茉莉子、波間薫、小瀬村恵理、木村亜希子

昔から下痢や便秘など直接的な腸の機能悪化を改善する薬として用いられてきた整腸剤だが、近年は腸内環境の正常化により、生活習慣病やアレルギーを含む免疫機能の正常化にも効果を与える研究が注目され、見直される整腸剤の機能について、今回改めて勉強した。

【効能・効果】

腸内菌叢の異常による諸症状の改善

【用法・用量】

通常、成人には1日3～6錠を3回に分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

【用法及び用量に関する使用上の注意】

本剤は口腔内で崩壊するが、口腔粘膜から吸収されることはないため、唾液または水で呑み込むこと。

【特徴】

- ・腸内細菌叢の活性化により、蠕動運動・消化吸収機能野促進を図る。
- ・糖化菌（好気性）、乳酸菌（通性嫌気性菌）、酪酸菌（偏性嫌気性菌）の3種の菌を配合したことで小腸から大腸までの腸全体の機能を正常化することが可能。
- ・抗生剤（特にセフェム系・アミノグリコシド系）の感受性が低く、併用が可能。
- ・乳製品アレルギーの患者さんへの使用が可能。

【質疑】

- ・下痢の場合に改善効果は見られるが、便秘の場合は効果あるのか？
→腸内細菌叢を正常に整える効果により、下痢にも便秘にも効果がある。

・用法に食前食後の記載はないが、胃のPHの影響はあるのか？

→食前（PH2）は3種のうち乳酸菌の活性が下がるので、食後（PH3）の方が、より効果は良い。

・粉碎や一包化は可能か？

→一包化は3ヶ月安定が確認されており可能。粉碎は乳鉢による粉碎のみ確認ができており、可能。

【考察】

小児や高齢者においては剤形が直接CPに結びつくことが考えられるため、今回発売のOD錠はCP改善に大きく効果を期待できる製品である。錠剤より溶かしやすく、散剤よりカサを減らせるという点において、経腸栄養の患者さんや、そのサポートをする側にとっても負担が少なくなるという利点もある。

腸管の機能が落ちている患者さんの場合は、下痢と便秘が交互に出る場合もあり、いずれの症状にも改善効果が見られる当薬剤は使い勝手が良い。

年齢に関わらず、錠剤、散剤、OD錠と選べる剤形のため、その患者さんにあった剤形でCPの向上に協力できるよう努めたい。